

Title	2015 牧会サマーセミナー「牧会者の自己ケア」報告
Author(s)	藤掛, 明
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.25No.2, 2016.3 :12-12
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5646
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

2015 牧会サマーセミナー 「牧会者の自己ケア」報告



上段：堀肇非常勤講師 村上純子准教授 窪寺俊之教授

2015年9月7日（月）、牧会サマーセミナーが開催された。臨床牧会教育のような牧師のためのプログラムをカウンセリング研究センターらしく提供しようということで始まった本セミナーは、8年目を迎えた。人の心や魂への洞察を深め、牧会上の課題を参加者同士がわかちあうことを中心としたプログラムが定着している。

2015年度のテーマは、「牧会者の自己ケア」であった。これまでのテーマに比べ、牧会の働きの領域でなく、その前提となる牧会者自身に焦点を当て、自己ケアのあり方について、学び、分かち合うことを目指した。テーマに呼応し、11教会13名の牧師、伝道師が参加してくださった。

最初に参加者一人一人が自己紹介をし、現在の課題や本セミナーへの期待を語った。課題や期待は、自己ケアというテーマだけでは収まりきれない複雑さや切実さがあった。

その後午前中に2つの講演があった。一つ目の講演は、堀肇先生（聖学院大学大学院非常勤講師）で、セミナー全体のテーマと同様に「牧会者の自己ケア」と題してお話をされた。堀先生は、牧会者が精神的にも霊的にも疲れており、牧会者への牧会の必要性を述べられた。まず牧会者の疲れの現れ方を様々な観点から分析され、その上で、牧

会者へのケアについて具体的な事柄を述べられた。内容は多岐にわたり、心理的な事柄、霊的な事柄双方に具体的に言及され、配布された多くの資料とともに、参加者の頭脳と魂を揺さぶったのではないと思った。

二つ目の講演は、村上純子先生（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）で、「ストレスと付き合う」と題してお話をされた。最初に、ストレスやそれへの対処法についての心理学的理論を紹介し、続いてクリスチャンや牧師特有の問題を取り上げられた。また簡単なストレス・チェックをその場で行い、また先生からの問いかけに応じて、各自が自身のストレス対処法を振り返えるひとときとなった。

昼休憩をはさみ、午後からは3つの分科会に別れた。この分科会では午後の2時間を使い、参加者が午前中の講演で引き出された思いや課題、また現に直面している困難を語り合い、分かち合った。分科会ごとにテーマがあるわけではなく、参加者はいわば機械的に振り分けられるのだが、グループごとに話題は個性化する。守秘義務があるため、内容については書けないが、どのグループでも切実な事柄が話され、その場で解決策をコメントし合うことはしないのだが、語り合いの中で各自が新たな洞察を得ているように思われた。

その後全体で集まり、グループごとに語り合った内容をわかちあい、最後に窪寺俊之先生（聖学院大学人間福祉学部こども心理学科長）が全体を総括し、セミナーを終えた。5時間半の長丁場のセミナーであるが、毎回思うののだが、あっという間の一日であった。

（文責：藤掛 明 [ふじかけ・あきら] 聖学院大学人間福祉学部こども心理学科准教授）